

平成 30 年 5 月 18 日 議会改革検討会議報告書(抜粋)

3 協議結果

※(1)略

- (2) リース延長後における対応については、原則として資料3に記載の仕様例を満たす機器を選定し、更新を行う。
- (3) 議会における利用形態が、審議における資料閲覧や、資料の検索、執務室での資料作成、視察時の参考資料検索などであることを踏まえ、次期機器を選定するにあたっての基本的な考え方を次のとおり整理した。
- ① 利用形態を中心に総合的に機種を考えると、モバイルPC、タブレットといった分類にはこだわらない。
 - ② 資料閲覧のため、画面はできるだけ大きなものとするが、一方で、本会議場、委員会室、視察場所などへの持ち運びしやすいように、できるだけ軽量であること、また、画面とキーボードが取り外し可能であることが望ましい。
 - ③ 執務室での作業を考慮し、できるだけ、文書作成しやすいキーボードであること。
 - ④ 現在利用している議会クラウド、サイドブックスについては、議会審議への利用のしやすさや、コスト的な観点も考慮しながら、引き続き検討を行う。

なお、上記のほか、手軽で、操作しやすいという観点から、iPadのような閲覧性に優れた機器がよいのではないかという意見、また、同じく閲覧性の観点から、通信速度の速いものを求める意見、さらに、議会クラウドに、貸与タブレット以外からもアクセスできることを望む、といった意見もあった。

資料 3 (H30. 05. 18 報告書) 抜粋

1 略

2 機器仕様の考え方

項目	概要
現行ノートと同等以上のマシンスペック	<p>CPU、メモリやストレージがモバイル利用でも同等のものを保持するか、むしろ向上していることを要件とする。</p> <p>【参考】現行機種 (Surface3)</p> <p>C P U : Intel Atom Processor x7 Z8700 (1.6GHz)</p> <p>メ モ リ : 4GB</p> <p>ストレージ : 128GB</p>
できるだけ大きな画面と可搬性の両立	<p>外付けディスプレイを必須としない限度で小型化、軽量化することを要件とし、解像度を向上させ拡大率を選択できるようにする。可搬性について、LTE 接続はもちろんのこと、重量 1 kg 程度及び長時間のバッテリー駆動が可能であることを要件とする。</p> <p>【参考】現行機種 (Surface3)</p> <p>重 量 : 641g (キーボードありの場合は 887g)</p> <p>画 面 : 10.8 インチ</p> <p>バッテリー : 約 10 時間 (動画再生時)</p>
拡張性の確保	<p>USB や Bluetooth 接続等による複数の外付けデバイス利用 (テンキー、マウス、DVD ドライブ、キーボード等) を確保する。</p>
2 in 1 タイプの導入 ※ 2in1 とは、ノート及びタブレット双方の要素を併せ持った端末を指す。	<p>議会審議での利用や、当局との打合せ・調整用件を重視し、360° 回転や着脱方式などによるタブレットモード利用タイプのパソコン導入を行うことが望ましいが、コスト面について慎重な検討が必要。</p>